

平成28年度 評価表(案)

〔 P1～P3 県立広島病院
P4～P5 県立安芸津病院 〕

1 評価表 (広島病院)

1 具体的取組①

I 医療機能の強化と患者サービスの向上

番号	取組方針	取組項目	実績総括	自己評価	委員会評価案	委員会意見 (取りまとめ案)
①	救急医療機能の強化	略	略	○	◎	<p>受入困難患者の分析や外科救急輸番制への参加など、救急患者受入体制を強化した結果、救急車受入台数は、昨年度に比べ252件増加、救急患者応需率も82%と8%増加しており、地域における救急医療体制を自覚して、率先的役割を果そうと努力している。</p> <p>また、脳・心臓血管センターの充実、ドクターヘリへの貢献等評価できる。</p> <p>一方で、三次救急の意義に関して県民が理解できるよう指標や表現に工夫が必要である。</p>
②	成育医療機能の強化	略	略	◎	◎	<p>NICU・GCU受入患者数、ハイリスク分娩数、新生児搬送受入件数、緊急母体搬送受入件数が経年的に増加し続けるなど、広島県成育医療の「最後の砦」としての医療機能を十分に発揮しており、県病でなければできない対応を高く評価する。</p>
③	がん医療機能の強化	略	略	○	○	<p>集学的医療、先進的医療への努力を評価する。</p> <p>リニアック治療件数は経年的に減少傾向にある一方で、広島がん高精度放射線治療センターへの紹介件数は増加しており、治療機器を更新するのか、高精度放射線治療センターとの連携を深化させるのか、判断が求められている。</p>
④	地域医療への貢献	略	略	○	○	<p>地域とのコミュニケーションには尽力されていることがうかがえる。</p> <p>一方で、病院中心の数Km範囲での地域医療連携は勿論重要だが、県全体への県病としての対応も必要である。</p>
⑤	医療安全と質の向上	略	略	○	◎	<p>ヒヤリ・ハット事例の収集・分析・対策立案、院内外での研修会の開催など、医療安全に対する取り組みは適切に実施されており、安全と質保障についての職員の意識は向上してきている。</p> <p>また、全国規模の臨床評価事業への参画、クリニカルパスの活用、さらにはチーム医療の展開やTQM・5S活動など積極的に取り組んでおり、評価できる。</p>
⑥	患者サービスの向上	略	略	◎	○	<p>目標指標に対して改善の努力が示されたが、患者サービスには終わりがなく、まだ取り組むべきことがあると考える。</p> <p>また、満足度調査でのやや満足は、やや不満足ととらえるべき。</p>

委員評価	委員会意見 (各意見)
◎5 ○1	<p>■増加する受け入れ件数への対応を高く評価するが、三次救急の意義に関して県民が理解できるよう指標や表現に工夫がいると思う。(谷田)</p> <p>■地域における救急医療体制を自覚して、率先的役割を果そうと努力している。(木原)</p> <p>■受入困難患者の分析や外科救急輸番制への参加など、救急患者受入体制を強化した結果、救急車受入台数は、昨年度に比べ252件増加、救急患者応需率も82%と8%増加している。また、ドクターヘリによる搬送患者数も昨年度と同程度の50人台を維持しているなど、救急医療機能を適切に発揮しており、評価できる。(塩谷)</p> <p>■脳・心臓血管センターの充実、救急車の受け入れ体制の強化と実績やドクターヘリへの貢献等全て◎でよい。(楢谷)</p> <p>■重篤患者の受け入れ比率、並びに応需率を評価した。(和田)</p>
◎5 ○1	<p>■県立病院ならではの医療領域について積極的な取り組みがなされているものと高く評価した。(谷田)</p> <p>■入院患者の数の増加は問題ではない。(木原)</p> <p>■NICU・GCU受入患者数、ハイリスク分娩数、新生児搬送受入件数、緊急母体搬送受入件数が経年的に増加し続けるなど、広島県成育医療の「最後の砦」としての医療機能を十分に発揮しており、高く評価できる。(塩谷)</p> <p>■県病でなければできない対応を高く評価する。(楢谷)</p> <p>■NICU、GCUで受け入れ患者が増えている。(平井)</p>
◎1 ○5	<p>■治療機器を更新するのか、高精度放射線治療センターとの連携を深化させるのか、判断が求められている。(木原)</p> <p>■がん患者数は、目標値を上回ったものの、前年度に比べて減少している。リニアック治療件数も経年的に減少傾向にある一方で、広島がん高精度放射線治療センターへの紹介件数は増加している。(塩谷)</p> <p>■集学的医療、先進的医療への努力を評価する。(楢谷)</p>
◎1 ○5	<p>■地域とのコミュニケーションには尽力されていることがうかがえる。(木原)</p> <p>■地域医療機関との連携強化のための取り組みは、評価できる。(塩谷)</p> <p>■病院中心の数Km範囲での地域医療連携は勿論重要だが、県全体への県病としての対応も必要となる。(楢谷)</p>
◎4 ○2	<p>■院内の安全についての取り組みは十分にされているものと評価した。(谷田)</p> <p>■安全と質保障についての職員の意識は向上してきているようだ。講習会など充実している。(木原)</p> <p>■ヒヤリ・ハット事例の収集・分析・対策立案、院内外での研修会の開催など、医療安全に対する取り組みは、適切に実施されている。また、医療の質の向上についても、全国規模の臨床評価事業への参画、クリニカルパスの活用、さらにはチーム医療の展開やTQM・5S活動など積極的に取り組んでおり、評価できる。(塩谷)</p> <p>■頻回の研修会の開催と参加実績を評価する。(楢谷)</p> <p>■DPC係数Ⅱ、並びにTQM活動を評価した。(和田)</p>
◎1 ○5	<p>■県内の医療機関の模範となりうるという確信がもてないものの、利用者にとってはよいことであると評価した。(谷田)</p> <p>■目標指標に対して改善の努力が示された。(木原)</p> <p>■患者サービスには終わりがなく、「○」評価とした。(塩谷)</p> <p>■満足度調査でのやや満足は、やや不満足ととらえるべしと考える。(楢谷)</p> <p>■患者サービスには取り組んでいるが、満足度を得るのが一番難しいことを考えるとまだ、取り組むべきことがあると考えた。(平井)</p>

1 評価表 (広島病院)

1 具体的取組②

番号	取組方針	取組項目	実績総括	自己評価	委員会評価案	委員会意見 (取りまとめ案)
II 人材育成・確保・派遣機能の強化						
⑦	医療人材の育成・確保・派遣	略	略	◎	◎	研修体制の整備について、新専門医制度対策やふるさと枠対策を含め、積極的に関与された。 また、県内医療従事者に対する教育研修など、積極的に人材育成に取り組んでおり、評価できる。
III 危機管理対応力と経営力の強化						
⑧	危機管理対応力の強化	略	略	◎	◎	県内最多のDMAT3チームを編成し、県内外のさまざまな事例に対し数多くの派遣を行っており、顕著な活動が示されている。
⑨	経営力の強化	略	略	○	○	病床利用率は前年度を上回ったものの、新規入院患者数は目標値および前年度値を下回っている。 PDCAが回っているのか、明確ではない。
⑩	増収対策	略	略	○	○	地域の医療機関に診療内容が評価され、利用者が増加した点を高く評価した。 また、平均在院日数を維持しながらの病床稼働率up、総合入院体制加算1の取得や診療報酬加算項目の強化などにより、医業収益は約7億円増加しており、評価できる。
⑪	費用合理化対策	略	略	○	○	後発医薬品使用比率80%超え、診療材料比率0.3%低減、光熱水費0.5億円の削減は評価できるが、人件費率が高すぎる。
IV 連携強化						
⑫	2病院の協力状況	略	略	○	○	医薬品の共同購入、新人看護職員等職員交流会、看護部合同研修会の開催、病院間での相互医師派遣、広島病院MEの安芸津病院への派遣など、2病院の協力体制を評価する。 一方で、夫々の強みを生かすためにはという視点でもっとやることがあると思い、道半ばと評価した。

委員評価	委員会意見 (各意見)
◎4 ○2	<ul style="list-style-type: none"> ■ 研修体制の整備について、新専門医制度対策やふるさと枠対策を含め、積極的に関与された。(木原) ■ 初期臨床研修医の確保と県内定着への貢献、数多くの海外学会発表、認定資格取得のための財政的支援、さらには、県内医療従事者に対する教育研修など、積極的に人材育成に取り組んでおり、評価できる。(塩谷) ■ 多職種の養成、教育への努力を高く評価する。(楢谷) ■ 働き方改革をもっと進めるべき。(平井) ■ 研修生の受け入れと看護師の離職率の低さを評価した。(和田)
◎5 ○1	<ul style="list-style-type: none"> ■ DMAT隊派遣など、顕著な活動が示されている。(木原) ■ 県内最多のDMAT3チームを編成し、県内外のさまざまな事例に対し数多くの派遣を行っている。(塩谷) ■ DMAT体制を評価。(楢谷)
○6	<ul style="list-style-type: none"> ■ 診療科単位での院長ヒアリングは当然である。(谷田) ■ PDCAが回っているのか、明確ではない。(木原) ■ 病床利用率は前年度を上回ったものの、新規入院患者数は目標値および前年度値を下回っている。(塩谷)
◎1 ○5	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域の医療機関に診療内容が評価され、利用者が増加した点を高く評価した。(谷田) ■ 当然するべきこと。(木原) ■ 延べ入院患者数の増加、病床利用率の向上、総合入院体制加算1の取得や診療報酬加算項目の強化などにより、医業収益は約7億円増加しており、評価できる。(塩谷) ■ 平均在院日数を維持しながらの病床稼働率upを評価。(楢谷)
○4 △2	<ul style="list-style-type: none"> ■ 価格交渉に重きをおく費用合理化は高く評価できない。(谷田) ■ 後発医薬品使用比率80%超え、診療材料比率0.3%低減、光熱水費0.5億円の削減は評価できる。(塩谷) ■ 人件費upは、やむを得ない。(楢谷) ■ 人件費率が高すぎる。(和田)
○5 △1	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2病院の協力とは、さまざまな領域で相互補完的な関係をもつことであるとの趣旨でこの項目が設けられたのであり、道半ばと評価した。(谷田) ■ 夫々の強みを生かすためにはという視点でもっとやることがあると思う。(木原) ■ 医薬品の共同購入や価格交渉による費用削減の試みは、評価できる。また、新人看護職員等職員交流会や看護部合同研修会の開催、病院間での相互医師派遣、広島病院MEの安芸津病院への派遣なども、評価できる。(塩谷) ■ 2病院の協力体制を評価する。(楢谷)

1 評価表 (広島病院)

2 取組結果

番号	取組方針	取組項目	実績総括	自己評価	委員会評価案	委員会意見 (取りまとめ案)
V 決算、目標指標						
⑬	収支改善・目標指標の達成	略	略	○	○	約3億円の経常収支黒字を達成しており、収支的に改善している点を高く評価した。 一方で、入院患者、全身麻酔件数が減少しており、ひきつづきフォローが必要である。

委員評価	委員意見 (各意見)
○6	<ul style="list-style-type: none"> ■医療事業と政策事業の経理的な切り分けが不明であるが、収支的には改善している点を高く評価した。(谷田) ■入院患者、全身麻酔件数の減少は気になる。ひきつづきフォローが必要。(木原) ■約3億円の経常収支黒字を達成したことは、高く評価できる。しかし、年度末内部留保金は26年度・27年度・28年度と3年連続して減少している。(塩谷)

総合評価	◎	<p>「県民医療の最後の砦」として、創意工夫を凝らしながら、公共性と経済性をしっかりと両立させており、評価できる。</p> <p>取組項目については、計画通りの取り組みがなされているものと評価できる。また、県病院の質改善に構成員が職種をこえて取り組むなど、医療機能は◎である。</p> <p>一方で、経営面では、○の部分が多く、まだ改善すべき点がある。</p>
------	---	--

◎4 ○2	<ul style="list-style-type: none"> ■各項目については、計画通りの取り組みがなされているものと評価する。(谷田) ■構成員が職種をこえて県病院の質改善にとりくんでおられ、それが目にみえつつあると思います。(木原) ■「県民医療の最後の砦」として、創意工夫を凝らしながら、公共性と経済性をしっかりと両立させており、評価できる。今後とも、広島県医療「全体の最適化」を念頭に、「個の最適化」に努められたい。(塩谷) ■県病としての役割が果たされている。(檜谷) ■まだ改善すべき点があるため。(平井) ■医療機能は◎ですが、経営面では、まだ○の部分が多いです。(和田)
----------	--

1 評価表 (安芸津病院)

1 具体的取組①

番号	取組方針	取組項目	実績総括	自己評価	委員会評価案	委員会意見 (取りまとめ案)
I 医療機能の強化と患者サービスの向上						
①	医療提供体制の強化	略	略	○	◎	<p>地域ケア会議・ネットワーク会議への参加やケアマネとの定期会合の立ち上げ、地域の歯科医院との連携など、地域包括ケアシステムの拠点病院のモデルを示すための様々な取り組みが行われているものと高く評価する。</p> <p>また、ロコモ、リハビリ、在宅支援など、安芸津病院の地域での特徴づけが始ったと感じる。</p> <p>一方で、訪問看護の強化など、県内の在宅医療の拠点病院となることを期待している。</p>
②	医療安全と質の向上	略	略	○	○	<p>転倒・転落予防対策をより充実させた結果、その発生件数および発生率が明らかに改善したこと、口腔衛生への取組など評価できる。</p>
③	患者サービスの向上	略	略	○	○	<p>患者意見を聞きながら、さまざまな視点からの患者サービス向上に努めており、評価できる。</p> <p>一方で、外来の待ち時間に対する不満に適切に対処する必要がある。</p>
II 人材育成・確保・派遣機能の強化						
④	医療人材の育成・確保・派遣	略	略	○	○	<p>広島病院の初期研修医を積極的に受入れ、総合診療医としての知識と技術の修得を支援するとともに、看護師や理学療法士等の実習も受入れており、評価できる。</p> <p>専門領域の診療をどこまでサポートするのか、地域の中で示してほしい。</p>
III 危機管理対応力と経営力の強化						
⑤	危機管理対応力の強化	略	略	○	○	<p>地域の防災・消火訓練への参加やネットワーク防災チームとの連携、災害支援ナースの配置など、地域に根ざした防災活動を評価する。</p> <p>また、週1回の感染症委員会ICTのラウンドを評価する。</p>
⑥	経営力の強化	略	略	○	○	<p>DPCデータ分析を病床管理に反映させ、病床稼働は顕著に改善している。</p> <p>また、包括ベッドコントロール良好であり、地域包括ケア病床の増床をもたらしたことは評価したい。</p>

委員評価	委員会意見 (各意見)
◎3 ○2 △1	<p>■地域包括ケアシステムの拠点病院のモデルを示すための様々な取り組みが行われているものと高く評価する。(谷田)</p> <p>■ロコモ、リハビリ、在宅支援など、安芸津病院の地域での特徴づけが始ったと感じる。(木原)</p> <p>■勤務医不足にあって救急医療や小児医療等の政策医療を堅持し、在宅療養支援機能としての訪問診療・訪問看護・訪問リハの件数も、わずかではあるが前年度に比べて増加していることは評価できる。とくに、地域ケア会議・ネットワーク会議への参加やケアマネとの定期会合の立ち上げなど、地域包括ケアシステム構築への取り組みは高く評価したい。(塩谷)</p> <p>■地域の病院としての存在感がある。歯科との連携を評価。(楢谷)</p> <p>■県内の在宅医療の拠点病院となるための期待を込めて厳しい評価とした。(平井)</p> <p>■訪問看護を強化するべし。(和田)</p>
○6	<p>■地域包括ケアシステムの拠点病院のモデルを示すための様々な取り組みが行われているものと高く評価する。(谷田)</p> <p>■活動が始ったところかと思われる。(木原)</p> <p>■転倒・転落予防対策をより充実させた結果、その発生件数および発生率が明らかに改善している。(塩谷)</p> <p>■口腔衛生を評価。(楢谷)</p>
○6	<p>■さまざまな視点からの患者サービス向上に努めており、評価できる。しかし、患者サービスには終わりがなく、「○」評価とした。(塩谷)</p> <p>■意見を聞きながらの対応を評価する。(楢谷)</p> <p>■外来の待ち時間に対する不満に適切に対処する必要があります。(和田)</p>
○6	<p>■専門領域の診療をどこまでサポートするのか、地域の中で示してほしい。(木原)</p> <p>■広島病院の初期研修医を積極的に受入れ、総合診療医としての知識と技術の修得を支援するとともに、看護師や理学療法士等の実習も受入れており、評価できる。(塩谷)</p> <p>■地域医療研修は、これからの重要テーマです。(楢谷)</p>
◎1 ○5	<p>■地域の防災・消火訓練への参加やネットワーク防災チームとの連携、災害支援ナースの配置など、災害対策意識は高く、評価できる。(塩谷)</p> <p>■地域に根ざした防災活動を評価する。週1回の感染症委員会ICTのラウンドを評価する。(楢谷)</p>
◎3 ○3	<p>■病床稼働は顕著に改善している。(木原)</p> <p>■DPCデータ分析を病床管理に反映させ、稼働率の上昇と地域包括ケア病床の増床をもたらしたことは評価したい。(塩谷)</p> <p>■包括ベッドコントロール良好。(楢谷)</p> <p>■地域包括病床の導入で全体の稼働率が上がったこと。(和田)</p>

1 評価表 (安芸津病院)

1 具体的取組②

番号	取組方針	取組項目	実績総括	自己評価	委員会評価案	委員会意見 (取りまとめ案)
⑦	増収対策	略	略	○	○	新たな診療報酬加算や新規入院患者数の増加などにより、医業収益は対前年度比約9千万円の増加となった。また、医業未収金(新規発生額)は、さまざまな対策を講じた結果、対前年度比約170万円減の約890万円になるなど、収益の大幅な改善を評価する。 一方で、入院単価が減少したことはマイナスである。
⑧	費用合理化対策	略	略	△	△	後発医薬品使用比率は、27年度の45%から28年度は87%に増加しており、評価できる。 一方で、人件費は対前年度比約13百万円減少したものの、経費が約23百万円増加し、医業費用は全体で約11百万円の増加となり、十分な成果が上がったとは言えず、まだまだやることがある。
IV 連携強化						
⑨	(2病院)協力状況	略	略	○	○	新人看護職員等職員交流会や看護部合同研修会の開催、病院間での相互医師派遣、広島病院MEの安芸津病院への受入など、評価できる。 また、医薬品の共同購入や価格交渉による費用削減の試みも評価できるが、その成果については言及されていない。

委員評価	委員会意見 (各意見)
○6	<ul style="list-style-type: none"> ■新たな診療報酬加算や新規入院患者数の増加などにより、医業収益は対前年度比約9千万円の増加となった。医業未収金は、さまざまな対策を講じた結果、対前年度比約170万円減の約890万円となった。(塩谷) ■トータルでの収益の大幅な改善を評価する。(楢谷) ■入院単価が減少したことはマイナス。(和田)
△6	<ul style="list-style-type: none"> ■まだまだやることがあると思われる。(木原) ■後発医薬品使用比率は、27年度の45%から28年度は87%に増加しており、評価できる。一方、人件費は対前年度比約13百万円減少したものの、経費が約23百万円増加し、医業費用は全体で約11百万円の増加となった。(塩谷) ■十分な成果が上がっていない!(楢谷)
○5 △1	<ul style="list-style-type: none"> ■医薬品の共同購入や価格交渉による費用削減の試みは評価できるが、その成果については言及されていない。新人看護職員等職員交流会や看護部合同研修会の開催、病院間での相互医師派遣、広島病院MEの安芸津病院への受入なども、評価できる。(塩谷) ■交渉の継続(楢谷)

2 取組結果

V 決算、目標指標						
⑩	収支改善・目標指標の達成	略	略	△		地域でやれることは何かという視点での改革が始りつつあるように思える。 目標指標9項目のうち、達成できたものは2項目にとどまるものの、経常収支は赤字約百万円にまで縮減しており、評価できる。 一方で、さまざまな取り組みが政策事業に関連するものであると思われるが、それが収支に及ぼす影響を特定できないので、低い評価とせざるをえなかった。

○3 △3	<ul style="list-style-type: none"> ■さまざまな取り組みが政策事業に関連するものであると思われるが、それが収支に及ぼす影響を特定できないので、低い評価とせざるをえなかった。(谷田) ■地域でやれることは何かという視点での改革が始りつつあるように思える。(木原) ■9項目のうち、達成できたものは2項目にとどまるものの、経常収支は赤字約百万円にまで縮減しており、評価できる。(塩谷) ■トータルでの収支は改善している。(楢谷) ■新規入院患者の減少が原因か。患者獲得の機会を探る必要があります。(和田)
----------	--

総合評価	○	<p>地域医療に関するさまざまな取り組みの実態は、県立病院のあり方に即しているという点を高く評価した。</p> <p>また、限られた医療資源のもと、地域特性を反映した医療機能の発揮に努めており、評価できる。</p> <p>一方で、地域を守る医療提供機関として努力されているが、高齢者が増えゆく地域でできるだけ長く暮らしていくことを支えるための拠点病院となるためには、まだまだ道半ばである。</p>
------	---	--

○5 △1	<ul style="list-style-type: none"> ■地域医療に関するさまざまな取り組みの実態は、県立病院のあり方に即しているという点を高く評価した。(谷田) ■改革のスタートが示された。(木原) ■限られた医療資源のもと、地域特性を反映した医療機能の発揮に努めており、評価できる。(塩谷) ■地域の病院としての役割が果たされている。(楢谷) ■高齢者が増えゆく地域でできるだけ長く暮らしていくことを支えるための拠点病院となるためには、まだまだ道半ばであるため。(平井) ■地域を守る医療提供機関として、努力されています。(和田)
----------	--